

島根県安来市から福岡県北九州(中継・ゴール)を結ぶ 「鐵の男達」の 700km リレーマラソン 「鐵の魂継承マラソン」“IronRoad 2007”



中継点の「KIGS」において記念撮影

鉄を愛する新日本製鐵(株)八幡製鐵所の社員と OB 及びその仲間たちで構成されている「チーム河野」は、今年は近代製鐵法が発祥して 150 年という節目の年にあたり、また今年 4 月にオープンした北九州イノベーションギャラリー「K I G S (キグス)」を応援することを目的に、わが国で古代製鐵「和鋼たたら」を継承してきた島根県出雲地域(9 月 7 日)から ^{たすき}襷をつなぎつつ ^{へいぐし かなや ご}幣串(金屋子神社の安部正哉宮司より授かった「鐵魂の劍」を装着)とともに、10 月 7 日、中継地点である北九州市八幡東区東田の“北九州イノベーションギャラリー(KIGS)”にランナー 7 人が到着した。

ランナーの一人でもあり、同企画の発案者でもある北九州環境プラントサービス(株)の櫻木準一氏は、「K I G S (キグス)の知名度のアップを第一の目的に計画しました。第二の目的は、21 世紀における技術・技能の継承の急所と思われる“心”探し、つまり、古代製鐵プロセスと近代製鐵プロセスに共通した“ものづくりの心”が融合し“鉄造りの文化”が更に発展するような心の変曲点を発見・創造できることを願っている。今回は、奥出雲町でご活躍中の“日刀保たたら”の木原村下、広島西城町の久保刀匠、防府市真尾の杉田刀匠にお会いし、“たたら心”や“作刀技術の開発に傾ける諦めない心”また、双方の工程に共通した



ランナーたちにエールを贈る
佐木館長

“炎のように燃え滾る情熱”と“仲間を大切にす
る心”を教わりました。それは、今回 700km 走
破という艱難辛苦が伴う目標に向かって、信頼で
きる仲間達が心身を一体化し、日々の精進(鍛錬・
練習)を糧にして、安全で確実なリレーマラソンす
る心、つまり“襷を繋ぐ心”とよく似通っており、
感動多き日々でした」と語った。

また、下関から門司港を経て八幡の東田まで走
る途中、八幡製鐵所 OB で現北九州文学館の佐木
隆三館長宅へ訪れた際、佐木館長は「官営八幡製
鐵所が創業したのは、1901(明治 34) 年ですから、106 年経ったところですね。
日本の“たたら式製鐵”は、1500 年の歴史があるそうで、私も島根県で“たた
ら操業”を実際にやっているところを観に行ったことがあります。今回のよう
に安来市から走ってくるということは、如何にも“チーム河野”らしくてとて
もいい試みだと思います。今後、東田で様々な行事があるでしょうが、1500 年
の歴史を走って来たという思いを皆さんに伝えて頂ければ感慨深いものがある
と思いますよ」とエールを贈った。



「“KIGS”の知名度アップ
も目的の一つ」と語る櫻木氏



「“鉄の文化”の継承者」と語る
酒井館長



「最後まで、鉄造りと同様、安全に走りたい」と語る
南 日新製鋼周南製鋼所長

今回、中継点となった北九州イノベーションギャラリーの酒井英孝館長は「皆さんは“アイアンロード 2007 鉄の魂継承マラソン”という、大変な難行事に挑戦しているわけであります。先日、私も今回スタートするときに安来市の“和鋼博物館”におじゃましました。皆さんは、古墳時代後半から始まり、鉄づくりの由緒ある広島地区を経由し、正に“鉄の道文化圏”の伝道者というお役目を果たしておられるんじゃないかと思います。私どもも 12 月 2 日、ここ東田において、新日本製鐵(株)八幡製鐵所の製鉄部の江頭グループリーダー、他現役の皆さんから熱心なご指導を頂きながら子どもたちにもものづくりの楽しさを体感して頂く、“東田市民たたら”を立ち上げたいと思っております」と語った。

最後に、日新製鋼(株)周南製鋼所の南憲次所長は「まだ、480 km でございますが、途中随分危げな場所もあり心配していたが、まあ無事に怪我もなく到着したことにホッとしております。まだこれから 220km が残っておりますので、鉄造りと同様事前の準備をキッチリ行い、安全最優先で最後まで走りたい」と走破に向けての抱負を語った。

今回の「鉄の魂継承マラソン」は、700 km のコースを 5 つのステージに分けて休日を利用してリレーマラソンで“鉄”製造の魂を継承し、各地で開催している主催者・共催者と「人材育成に役立つ心探し」を図ってきたものである。

第 1 ステージは、9 月 7 日に安来市の和鋼博物館をスタート。第二ステージは、呉市の大和ミュージアムをスタート。第三ステージは、防府市の杉田刀匠宅をスタートし、北九州イノベーションギャラリーまで。

第四ステージは、北九州市から福岡県京都郡の宇戸刀匠を訪ね、全日本刀匠会の宗刀匠が実行委員長を務める「第 2 回 お守り刀展覧会」(協賛：新日本製鐵(株)八幡製鐵所)の福岡市の会場まで。そして、復路にて九州北海岸を走り、“芦屋釜の里”に立ち寄って再度北九州入りを果たした。第五ステージは、11 月 2 日・3 日・4 日に行われている起業祭のイベントの中での「八幡東田ウルトラ 25 時間駅伝大会」へ参加。最後は 12 月 2 日に、KIGS 主催の「東田市民たたら操業への支援」で締めくくる予定となっている。

なお、幣串には刀子水夢 (刀：鍛えること刀の如し 子：喜ぶ(感動する)こと子どもの如し 水：継承すること水流の如し 夢：全ては自らの夢が成す技なり) と刻まれている。



第 3 ステージのスタート地点
関門トンネルの入口「下関側」



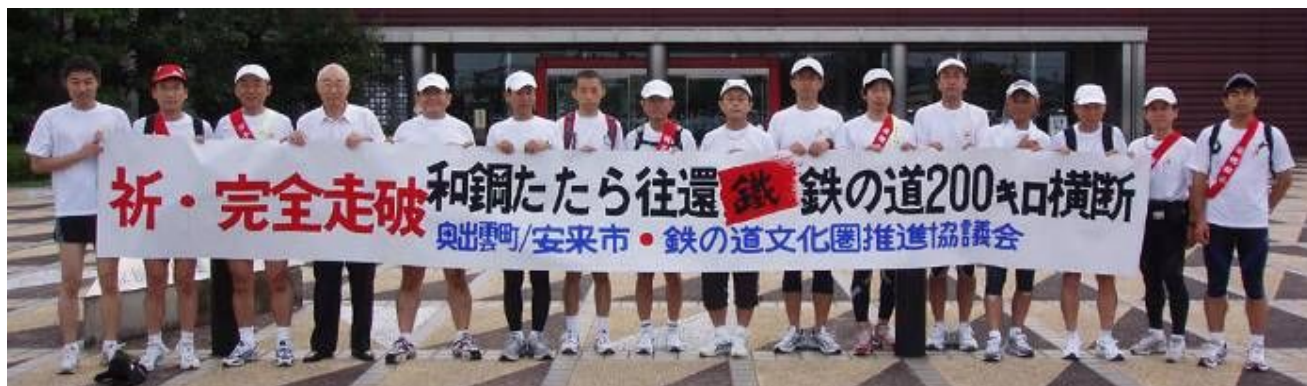
中継点の「東田第一第一高炉史跡広場」に到着



気合も充分 「門司港～門司駅間」



「北九州イノベーションギャラリー」に
サポーターも駆けつけ応援



スタート地点の和鋼記念館(島根県安来市)